

未来を創る子どもたち

学校・園活動紹介 26

思いきり体を動かして遊ぼう

にしあざい認定こども園では、自ら体を動かして遊ぶことを大切にしています。3歳児から5歳児が体操を楽しむ『きらきらタイム』では、5歳児のまねをしたり、異年齢で手をつないだりしながら、体を弾ませて取り組んでいます。活動後に山へ向かってする深呼吸は、気分爽快です。園庭



▲園庭池の飛び石渡り

では、池の飛び石を跳んだり、築山で登り降りしたりして遊んでいます。初めは恐るおそるだった子ども、繰り返しに転ばないようになっています。

また、自分たちで用具などを組み合わせて、遊ぶことも大好きです。友達と「こうしよう」と相談しながら大型ブロックで作った乗り物に乗ったり、木の枝を並び替えて跳んだりしています。友だちと協力して楽しく活動する姿は、とてもほほえましいです。

西浅井地域には、魅力的な場所がたくさんあり、『おでかけデー』では、国の重要な文化的景観に選定されている菅浦にも出かけ、長い坂道を登ったり



▲菅浦の琵琶湖畔

びわ湖での石投げを楽しんだりしました。地域の人に出会うと「こんにちは」と元気に挨拶する子どもたちの姿に、地域の方からも自然と笑顔がこぼれます。これからも心と体が動く直接体験を通して、心豊かでたくましい子に育ててほしいと願っています。

めざす子ども像

- 一、夢や目標をもち、それに向かって努力する子
- 一、思いやりのある心のやさしい子
- 一、ふるさとを愛し、誇りをもって生きる子

長浜子どもちかい

- ～わたしたちはちかいます～
- 一、元気にあいさつをします
 - 一、名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
 - 一、「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
 - 一、困っている人がいたら言葉をかけます
 - 一、人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章

- ～おとなが実践します～
- 一、子どもに誠実に生きる姿を見せます
 - 一、見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
 - 一、ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
 - 一、自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
 - 一、長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます

市長コラム 106

至誠通天

藤井 勇治



※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること

令和を迎えて

5月1日、新天皇が御即位され、新時代「令和」を迎え、心地よい緊張感とともに、自然と気持ちが高揚してまいります。

新元号「令和」に込められた思いは、「厳しい寒さの末にきれいに咲き誇る梅のように、日本人一人ひとりが美しい花を咲かせられるような時代になるように」とであります。

この思いは「梅」を市の花とする長浜につながり、歴史、規模ともに日本一である「長浜盆梅展」を開催し、寒い冬を乗り越え、つぼみが膨らんで一輪また一輪と咲く梅の姿を多くの人にご覧いただきたい。長浜にとっては、非常に親しみのある元号となりました。

また、「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味もあり、ユネスコ無形文化遺産の「長浜曳山祭」、地域に根ざした「観音文化」、雨森芳洲の説かれた「誠信の交わり」等を、地道な努力や熱意、志、結いの心をもって連



▲新入職員辞令交付式

綿と受け継いできた市民の皆さんは、新元号に込められた思いをすでに体現いただいております。この高い市民力を誇る本市では、本年52名の新入職員を迎えました。その新入職員への辞令交付式の中で、私は「このような素晴らしい長浜市の職員として働くことに誇りを持ち、長浜市を愛し、市民の皆さんから信頼される職員になってください」と激励しました。職員が全力で頑張れば、それを認め手を差し伸べ、頼もしいパートナーとなつていただける市民の皆さんこそが、本市の財産であり、誇りであります。今後も市民の皆さんとともに、職員一同一丸となつて、市民誰もが美しい花を咲かせ、輝けるまちとなるよう、全力で市政にまい進し、令和時代の長浜を創りあげてまいります。

歴史講演会「城下町の中世から近世」を開催します

歴史遺産課 ☎65-16510

長浜の城下町としての魅力を再発見し、地域づくりや観光振興に活かすため、歴史講演会を開催します。

【テーマ】

城下町の中世から近世
小谷城下から長浜城下へ

【講師】 京都大学大学院 准教授 山村 亜希氏

問合せ先

歴史遺産課（本庁舎2階） ☎65-16510

【受講料】 無料
【申込み】 不要

5月3日(金・祝)、26日(日)はゴミの持込みが可能です

環境保全課 ☎65-16513

クリスタルプラザ、クリーンプラントおよび伊香クリーンプラザでゴミの持込みを受け付けていますので、ご利用ください。

○受付時間

8時30分～12時、13時～16時30分

○次回の持込み受付予定日

6月23日(日)

5月の長浜市民献血デーにご協力ください

市内に献血バスが配車されますので、献血への協力をお願いします。健康企画課 ☎65-7779

5月11日(土) 西友長浜楽市店

【受付時間】 10時～11時45分、13時～15時30分
※400ml 献血をお願いします。詳しくは、滋賀県赤十字血液センターホームページまで。
(https://www.bs.jrc.or.jp/kk/shiga/)

市立病院通信 97

お元気ですか



皮膚科責任部長 井階 幸一

「肌の色」について

人間の「肌の色」は、個人差や人種等の違いによって異なりますが、実は「肌の色」が違うのは、ほぼ人間だけなのです。肌の色は他の哺乳類ではほぼ同じで、黒ネズミも白ネズミも毛をむしれば皮膚はみなピンク色です。多くの動物の色の相違は毛の色の違いです。なぜ、人間だけに「肌の色」の違いができたのでしょうか。

もともと人類の祖先はアフリカの熱帯雨林にいたのですが、進化を重ね、ジャングルを出て二本足で活躍するようになりました。そうなるに連れて太陽光線を大量に浴びて暑くなって、体表の毛も邪魔になります。もともと毛孔にしかなく、毛にメラニン色素を供給している色素細胞が、毛のない皮膚にも増加してきて皮膚全体が黒くなった

のです。

アフリカ大陸で誕生したと考えられている人類は、ユーラシア大陸など紫外線照射率の低い地域に移動し、「ビタミンD」欠乏が生じることになりました。ビタミンDは食物からでも摂取できますが、紫外線により体内で合成されるため、紫外線を吸収しにくい黒い肌では、ビタミンDが足りなくなるのです。昔雪国では日光に十分に当たらなかったために、子どもに「くる病」が多発したことはご存知です。北ヨーロッパなどに移住した人類は、ビタミンD欠乏によって、生殖可能年齢まで育たず自然淘汰が起こり、人間に肌の色の違いが生じてきたようです。しかし、人類の起源、進化については未だ不明なことも多く、この考えは必ずしも確定したものではありません。

体質、外的環境等、様々な原因が考えられますが、皮膚の色調が病的に変化することがあります。そのようなお悩みがある方は皮膚科にご相談ください。

問 市立長浜病院 ☎68-2300(代表)